

# 担い手の育成と経営発展支援

## ■ 認定農業者、新規就農者、女性農業者 ■

(小豆農業改良普及センター 政木哲哉、○西田美晴)

### ●対象の概要

管内における担い手は、認定農業者が60名前後で推移しており、うち認定農業者である農業法人数（集落営農を含む）は15、女性認定農業者は8名と増加傾向にある。

また、新規就農者は、年間10名程度で推移しており、うち雇用就農が全体の約4割を占めている。

表－1 管内の担い手の推移（単位：名・法人）

	H29	H30	R1	R2	R3
認定農業者	58	59	61	64	63
（うち法人）	10	10	11	13	15
（うち女性認定農業者）	5	6	7	7	8
新規就農者	7	9	9	9	10
（うち雇用就農）	4	4	4	4	4

### ●課題を取り上げた理由

基幹的農業従事者のうち60歳未満の割合は約16%と低く、高齢化の進展により、農業の担い手不足は深刻になっている。

このため、新規就農者を確保・育成し、早期に経営を安定・発展させ、認定農業者へと誘導していくほか、認定農業者には、関係機関と連携しながら、農地集積などによる経営規模の拡大や法人化などを推進し、経営感覚に優れた中核的な担い手へと育成する必要があった。

また、農業就業人口の約4割は女性であるものの、女性農業者が農業経営に参画する割合は低いことから、経営参画への意欲の向上と環境整備が求められていた。

### ●普及活動の経過

#### 1 農業簿記講座の開催

担い手の経営発展と経営管理能力の向上を図るため、認定農業者等を対象に定期的に経営管理講習会を開催した。

講習会では日常取引や決算仕訳など簿記記

帳の実務を指導するとともに、決算書のデータを基に前年との比較検討を行うなど、経営改善に向けた経営管理を指導した。

また、近年、新規就農者が増加傾向にあることから、新規就農者の早期経営安定に向けた支援策の一環として、令和3年度から簿記の基礎知識の習得を目的に「農業経営管理基礎講座」を開催している。



農業経営管理基礎講座

#### 2 個別相談会の開催

法人化、あるいは負債整理など、個々の様々な課題に対応するため、一般社団法人香川県農業会議（以下、農業会議）と連携し、税理士等の専門家による個別相談会を開催した。

#### 3 研修会の開催による経営改善支援

担い手の経営改善に必要な知識を習得するため、関係機関や専門家と連携を図り、経営改善研修会を2回開催した。

表－2 経営改善研修会の内容

回	主な内容	参加者
1	経営継承で知っておきたいポイント	19
2	決算書を活用した経営改善	20

#### 4 経営継承に向けたマッチングの支援

当地区は、農地面積が狭小であることから、就農希望者が農地を確保することや、農地を取

得してハウスを設置することは難しい。

そのため、高齢者で後継者がなく、やむを得ず農業をリタイアする農家と就農希望者とのマッチングを支援し、就農と早期経営安定に取り組んだ。

#### 5 女性農業者の経営参画と活動支援

管内では、女性の新規就農者が少しずつ増加する中で、県外から移住し新たに農業を始めるに当たり、人間関係の構築や地域への定着を図るための足掛かりとなる場づくりが必要であると感じたことから、女性農業者グループの設立に対し支援を行った。

また、女性の活動や農業経営を学ぶための支援の一環として、アグリレディススキルアップ研修を開催し、他地区で活躍している女性組織や農業者との交流を推進した。

## ●普及活動の成果

- 1 新規就農者を対象とした農業経営管理基礎講座を3回開催し、延べ34人の参加があった。講座では、複式簿記のしくみや貸借対照表、損益計算書の決算書の見方を指導した。  
また、認定農業者には決算書を活用して経営改善を支援する中で、法人化など新たな経営発展を目指す担い手も現れた。
- 2 法人化や新規就農など様々な農業者の経営課題に対して、税理士や社会保険労務士などの専門家から助言を行うとともに、知識や技術情報の提供を行うことで課題解決へと導いた。
- 3 管内では、担い手の高齢化が進んでいるため、経営継承をテーマにした研修会の開催により、家族間での話し合いや第三者への継承、集落営農の後継者対策などについて検討する良い機会となった。



農業経営発展支援セミナー

また、経営改善をテーマにした研修会では、先輩農業者から決算書を活用した事例発表を行うとともに意見交換を行うことで、これから経営者として自立を目指す新規就農者にとって大きな刺激となった。

- 4 移住者等からの就農相談に対しては、技術経営担当と新規就農担当が連携し、今後の就農計画の相談や活用できる補助事業について情報提供するほか、第三者継承による就農を後押しすることができた。農地や設備等の経営資源をそのまま引き継ぐことで、初期投資を低く抑えた就農へと導くことができた。
- 5 小豆島町で活躍している女性農業者3名と今年度新たに就農した女性農業者1名が、農業女性グループ「sweet小豆島」を設立した。  
設立に向けて行った意見交換会では、女性が長期に継続できる農業のあり方について検討されるなど、女性農業者同士の交流の場としての活躍が期待される。



「sweet小豆島」の会員

## ●今後の普及活動の課題

- 1 担い手の多様な課題に的確に対応していくため、関係機関や専門家と連携したサポート体制を強化していく必要がある。
- 2 農業者が自らの経営を振り返る場の提供を行い、決算書を活用して経営改善すべき点を明確化し、次年度以降の経営方針、計画に反映できるよう指導を行う。
- 3 小豆郡内に限らず、県内の女性農業者との交流会や研修会の実施、イベントへの出店を通じた小豆島産農産物のPR、さらには、女性農業者の農業経営や地域の活性化の取組を発信し、女性農業者の経営参画とグループ活動の支援を行う。